



2011年度地区別懇談会の様子【関連記事6ページ】

大学院薬学研究科 薬学専攻博士課程(4年制)の設置について



薬学研究科長 齊藤 浩司

薬学6年制の実施という大規模な制度改正に伴い、薬学研究科では大学院における今後の教育研究の在り方について検討を重ねてきました。その一環として、従来の修士課程(薬学専攻・医療薬学専攻)を再編し、2010年4月に新たに生命薬科学専攻修士課程を開設してきたところです。そして2012年4月より、6年制学部基礎を置き主として医療薬学・臨床薬学に重点を置いた教育研究を推進する新博士課程(4年制、入学定員3名)がスタートします。6年間の学部教育がジェネラリストとしての薬剤師を養成するステップとするなら、新博士課程は薬に関する高度な専門性を身につけて薬物療法の推進に寄与するスペシャリストを育成するためのステップと言えます。したがって、薬学6年制課程の卒業生ばかりでなく、修士課程修了者さらには薬学以外の6年制医療系学部出身者にも広く門戸を開くカリキュラム体系を整えました。

本学の新博士課程の特色をいくつかご紹介します。まず、旧博士課程で6つに細分されていた研究分野を「基盤薬学系」と「臨床薬学系」の2分野に再編したこと

が挙げられます。これは、大学院担当教員が個々の専門性にとらわれることなく分野を横断して連携・協力し、研究能力ばかりでなく指導力や応用力、企画力などを統合的に身につけた人材の育成に取り組むことを鮮明にするものです。これに連動して、1年次には指導教員以外の教員の研究指導の下で他分野の研究手法や技術を習得することができる基盤研究総合実習が設けられています。授業科目は1～2年次に医療薬学基盤科目14科目を、3～4年次に医療薬学応用科目10科目を配し、これらを原則選択とすることで学生が個々の興味を基に主体的に学べるカリキュラムとしました。さらには、2～4年次に提携医療機関に常駐し専門医や専門薬剤師の指導の下に臨床研究を展開しながら単位を修得していくことができるなど、様々なコースワークにより学位の取得を目指せるようになっていきます。

今後この新博士課程の特色を広く知ってもらうとともに、社会人学生の受け入れも積極的に図りながら、定員の確保に努めていきたいと思っております。皆様のご支援を宜しくお願いいたします。

CONTENTS

大学院薬学研究科	1
薬学専攻博士課程(4年制)の設置について	1
教員役職者・新任教員・昇任教員等紹介	2
「敬老の日の高齢者健康相談」に参加 本学歯学部教員等に対する感謝状の贈呈	2
歯科医療最前線	3
2012年度 入試情報・入試結果速報	4
短期留学生が来学	5
2011SCP任命式 合同就職相談会開催	5
学校法人東日本学園後援会	6
大学・専門学校同窓会役員との懇談会 プレセミナーin北海道医療大学	6
心理科学研究科の研究成果が学会賞を受賞 認定看護師研修センター修了式	7
授業レポート	8
私の学生時代	9
OG訪問[心理科学部言語聴覚療法学科]	10
STUDENTS' ACTIVITIES & EVENTS	11
SCRIP 2011	12
EDITOR'S NOTE	

教員役職者・新任教員・昇任教員等紹介

新規選出教員役職者

平成23年10月1日付

歯学部 学生部副部長 遠藤 一彦

新任教員

平成23年10月1日付



准教授

小島 悟 (こじま さとる)

PROFILE

札幌医科大学衛生短期大学部、北海道国
立大学経済学部卒業。北海道教育大学大
学院教育学研究科修士課程修了。札幌医科
大学医学部附属病院理学療法士、同大学
保健医療学部講師、カナダ・アルバータ大
学リハビリテーション医学部訪問研究員等を経
て、本学就任。教育学修士。

薬学部 助教(創薬化学) 金 尚永

歯学部 助教(生体機能・病態学系(臨床口腔病理学)) 佐藤 惇

平成23年11月1日付

歯学部

助教(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))

白井 要

昇任教員

平成23年10月1日付



看護福祉学部講師
(看護学科 実践基礎看護学)

明野 伸次 (あけの しんじ)

PROFILE

本学看護福祉学部卒業。同大学院看護福
祉学研究科修士課程修了。北海道大学医
学部附属病院看護師、本学看護福祉学部
助教等を経て、講師就任。看護学修士。

平成23年11月1日付



歯学部教授
(口腔生物学系(薬理学))

谷村 明彦 (たにむら あきひこ)

PROFILE

新潟大学理学部卒業。同大学院理学研
究科修士課程修了。本学歯学部講師、准教
授、米国国立歯科研究所客員研究員等を経
て、教授就任。理学博士。



看護福祉学部講師
(看護学科 地域保健看護学)

内ヶ島 伸也 (うちがしま しんや)

PROFILE

本学看護福祉学部卒業。同大学院看護福
祉学研究科修士課程修了。浜仁会西門山
病院看護師、本学看護福祉学部助教等を経
て、講師就任。看護学修士。

平成23年12月1日付



歯学部教授
(口腔構造・機能発育学系(組織学))

入江 一元 (いりえ かずはる)

PROFILE

新潟大学歯学部卒業。同大学院歯学研
究科修士課程修了。同大学歯学部助手、本
学歯学部講師、准教授、カナダ・モンリオ
ール大学歯学部電子顕微鏡研究室研究員等
を経て、教授就任。歯学博士。

配置替

平成23年10月1日付

歯学部 講師(口腔機能修復・再建学系(高度先進保存学)) 森 真理



本学歯学部越野教授が 気仙沼で「敬老の日の高齢者健康相談」に参加

震災から時間が経過するにつれ、身体虚弱、
低栄養、認知機能低下、抑うつなど高齢者の
様々な健康問題が顕著になりつつあります。こ



受付風景

のたび、日本老年医学会主催で、被災地支援の
一環として敬老の日に健康相談活動を行うこ
とになり、日本老年医学会、日本老年精神医学
会、日本老年歯学会の専門医・認定医に対する
ボランティア参加の要請を受け、本学歯学部
越野教授が、本学の災害支援活動の実績から
老年歯科医学会から派遣される歯科医師団の
責任者として参加しました。

参加した活動は、日本老年医学会主催の「敬
老の日の高齢者健康相談」であり、敬老の日の
9月19日(月)に被災地である気仙沼市の仮設
住宅集会所6か所で開催されました。



相談に対応する越野教授

相談会で、越野教授は歯科領域を担当し、歯
や義歯に関する悩み相談に対応し、義歯洗浄
剤、歯ブラシ等の口腔ケア用品の配布も行い、
口腔衛生の向上に向けた活動も合わせて行い
ました。



被災地支援活動にあたった 本学歯学部教員等に対する感謝状の贈呈

日本歯科医師会等からの派遣要請を受け
て、本学歯学部教員等が東日本震災におけ



有末歯学部長から
感謝状を受け取る
歯学部教員

る被災地支援活動にあたってきましたが、この
度、日本歯科医師会より、ご遺体の身元確認作
業のために出勤した歯科医師4名、身元確認作
業の待機リストに登録を行った歯科医師17名
に対して感謝状が送付されてきました。

これを受けて、10月19日(水)、有末歯学部
長より、労いの言葉とともに各歯学部教員等
に対して感謝状が手渡されました。

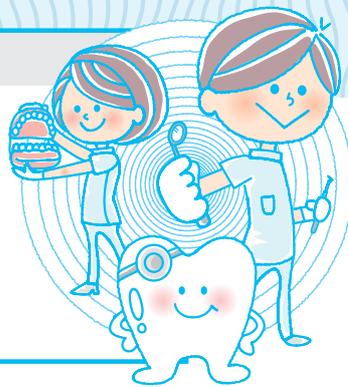


有末歯学部長(中央)を囲んで記念撮影

歯科医療 最前線

vol.4

〔 地域医療・訪問医療 編 〕



地域医療の未来に歯科医師は欠かせません。

高齢者にこそ、かかりつけ 歯科医師が必要です。

病気があり外出、通院ができない高齢者、寝たきりの高齢者のために、家庭を訪問して治療や、食べ物を噛む・飲み込むといった機能訓練を行う歯科医師が増えています。いまの診療機器はコンパクトになり、ワゴン車1台で訪問診療に出かけられます。介護老人保健施設などからの要請も多く、“走る歯医者さん”の活躍の場は広がっています。

歯科医師は患者さんにとって一番身近なお医者さん。高齢の方に限らず、日頃から歯の健診や口腔ケアを行う中で他の病気を発見できることもあります。歯科医師が口腔医学だけでなく全身への知識と理解をもち、頼りになるホームドクターとして介護医療や終末医療にも関わっていく、そんな時代が始まっています。

命にかかわる歯や口のばい菌。 歯科医師のケアが重要です。

日本人の三大死因といえば、がん、心疾患、脳血管疾患です。65歳以上の高齢者になると、これらに続く4番目に多い死因が肺炎です。肺炎は口の中のばい菌やウイルスが気管に入り込み肺の炎症を引き起こす感染症ですから、予防には歯磨きなど口腔ケアで口の中を清潔に保ち、抵抗力を高めることが大切となります。

しかし、高齢者は「嚥下障害」といって食べ物をうまく噛めない、飲み込めない、むせるといった状態の人が多くなります。神経や筋肉の衰え、認知症の進行による口の機能の低下が主な原因ですが、とくに介護が必要な方や寝たきりの方は食べ物が気管に入ってしまう誤嚥（ごえん）を起こし、一緒に口の中のばい菌が肺に入り、誤嚥性肺炎で亡くなる場合が多くなります。これを

防ぐためには、ふだんから口腔清掃をしっかり行うことが極めて効果的であることがわかっています。さらに、歯科医師のケアが加われば、死亡のリスクは4分の1に減らせるのです。

身近にかかりつけの
歯医者さんがいると
安心だねー



TOPICS

訪問歯科診療を実施しています。

北海道医療大学病院、歯科内科クリニックとも、地域社会への貢献の一環として、1995年（平成7）より訪問歯科診療を実施しています。両院で札幌市北区あいの里エリア、当別町をカバーし、高齢者、体の不自由な方など通院困難な方、年間およそ200人に利用されています。患者さんが入院・入所中の病院や福祉施設、または自宅に、歯科医師と歯科衛生士が出向き、義歯の調整・製作・修理、むし歯・歯周病の治療、口腔ケアなど、院内と同レベルの医療サービスを提供中。まだ認知度の低い訪問診療ですが、患者さんの生活に寄り添ったきめ細かな対応ができる“かかりつけ歯科医師”は、確実に地域で頼りにされる存在になってきています。



訪問診療用の機器はコンパクトながらも一般歯科のユニットと同等の機能を持ち、歯科医院で行う治療のほとんどを訪問診療でも可能にしています。

1/6(金)から一般前期入試、センター前期A入試の出願がスタート!!

一般前期入試試験日

試験日自由選択制

1/30(月)・1/31(火)

一般後期入試試験日

薬学部 2/28(火)

歯学部 2/27(月)

看護福祉学部

心理科学部

〈一般前期入試は試験日自由選択制〉

一般前期入試は1月30日と1月31日の二日間実施します。両日受験しても、どちらか一日のみ受験してもかまいません。受験日は出願の際に登録します。また、検定料は両日受験した場合も一日のみ受験した場合でも一律30,000円です。さらに、複数学科の併願も可能で、何学科受験しても追加の検定料は一切かかりません。(一日の受験で併願できる学科には制限があります。詳細は「学生募集要項」でご確認ください。)

〈センター入試は合計3回実施〉

センター入試は前期A、前期B、後期の合計3回実施します。

前期Aは1月6日からセンター試験の前日までを出願期間とする2教科型入試。前期Bはセンター試験終了後の翌日から1月24日までを出願期間とする2教科型入試。後期入試は2月に出願する2教科型入試です。大学独自の試験は実施せず、本学が指定する大学入試センター試験科目の得点のみで合否判定を行います。

また、全学部全学科の併願も可能で、同一入試形態内であれば何学科受験しても追加の検定料は一切かからず一律15,000円で受験

できます。さらに前期Aと前期Bの両方の入試形態に出願することも可能です。(検定料はそれぞれ必要です)

〈一般入試とセンター入試の併願も可能〉

一般前期入試とセンター前期A、センター前期Bの併願や一般後期入試とセンター後期入試の併願も可能です。

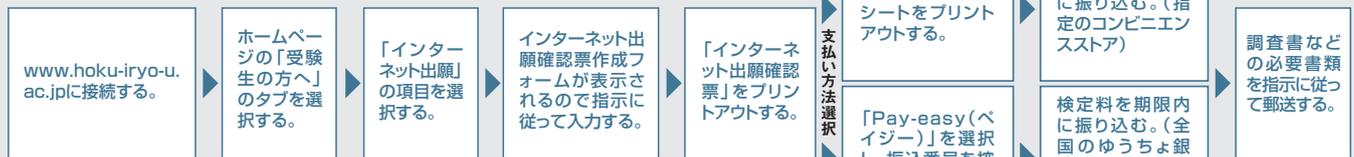
〈一般前期入試は全国13会場で実施〉

一般前期入試は、札幌、旭川、帯広、北見、函館、青森、秋田、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡の全国13会場で実施します。

インターネット出願について

本学では、2012年度入試のうち、センター試験利用入試(前期B・後期)と一般後期入試で、郵送による出願のほかにインターネットでの出願も受け付けます。センター前期B入試では、インターネット出願、書類による出願とも、大学入試センター試験終了後に出願することができます。

■センター入試(前期B・後期)と一般後期入試におけるインターネット出願の流れ



インターネットによる出願方法の詳細(検定料振込方法・振込期限、書類提出、受験票交付方法など)については、すでに本学ホームページ上で公開中です。上記手順については、インターネット出願の概略を示したものですので、必ず本学ホームページ(<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp>)で確認してください。

●インターネット出願の受付期間は次のとおりです。

【センター前期B入試】2012年1月18日(水)～2012年1月27日(金)正午まで 【一般後期入試・センター後期入試】2012年2月15日(水)～2012年2月22日(水)正午まで

2012年度 入試結果速報

北海道医療大学

推薦入試は本学をはじめ、全国8会場で実施。

AO方式入試は、全体で178名の志願があり、84名が合格、実質競争倍率は2.1倍でした。

一方、推薦入試は11月13日(日)に本学当別キャンパスをはじめ、帯広、北見、函館、仙台、東京、大阪、那覇の全国8会場で行われました。志願者総数は100名(指定校特別推薦除く)で、実質競争倍率は1.7倍となりました。

編入学試験は、全体で30名の志願があり、24名が合格、実質競争倍率は1.2倍でした。編入学2期試験は、薬学部と歯学部は1月31日(火)、看護福祉学部と心理科学部は1月30日(月)に、それぞれ札幌、東京、大阪の3会場で行われます。

■2012年度 編入学試験(1期)結果 ()内は前年度実績

学部・学科名	入試形態	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質競争倍率	
薬学部	社会人		3(2)	3(2)	2(0)	1.5(-)	
	一般	7(7)	9(14)	9(14)	6(8)	1.5(1.8)	
歯学部	一般	若干名(-)	7(6)	6(5)	6(5)	1.0(1.0)	
看護福祉学部	社会人		1(2)	1(2)	1(2)	1.0(1.0)	
	一般	7(7)	1(2)	1(2)	1(2)	1.0(1.0)	
●臨床福祉学科	社会人		0(0)	0(0)	0(0)	-(-)	
	一般	6(7)	2(1)	2(1)	2(1)	1.0(1.0)	
	指定校		0(1)	0(1)	0(1)	-(-)	
心理科学部	社会人		2(0)	2(0)	2(0)	1.0(-)	
	一般	2(5)	2(2)	2(2)	2(2)	1.0(1.0)	
●言語聴覚療法学科	社会人		0(5)	0(5)	0(4)	-(-)	
	一般	6(6)	3(5)	3(5)	2(3)	1.5(1.7)	
合計			28(32)	30(40)	29(39)	24(28)	1.2(1.4)

■2012年度 AO方式入試・推薦入試結果 ()内は前年度実績

学部・学科名	入試形態	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質競争倍率	
薬学部	AO方式	15(10)	44(39)	44(39)	28(26)	1.6(1.5)	
	一般推薦	20(22)	24(27)	24(27)	20(17)	1.2(1.6)	
	指定校特別推薦	25(22)	35(50)	35(50)	34(50)	1.0(1.0)	
歯学部	AO方式	20(20)	17(15)	17(15)	17(15)	1.0(1.0)	
	一般推薦	8(10)	1(1)	1(1)	1(1)	1.0(1.0)	
	指定校特別推薦	8(10)	2(0)	2(0)	2(0)	1.0(-)	
看護福祉学部	AO方式	6(6)	61(46)	61(46)	10(10)	6.1(4.6)	
	一般推薦	15(15)	50(42)	50(42)	18(16)	2.8(2.6)	
	指定校特別推薦	15(15)	29(29)	29(29)	29(29)	1.0(1.0)	
●臨床福祉学科	AO方式	15(15)	8(5)	8(5)	8(5)	1.0(1.0)	
	一般推薦	10(10)	1(3)	1(3)	1(3)	1.0(1.0)	
	指定校特別推薦	14(15)	21(21)	21(21)	21(21)	1.0(1.0)	
心理科学部	AO方式	5(5)	24(16)	24(16)	9(8)	2.7(2.0)	
	一般推薦	12(10)	15(15)	15(15)	13(13)	1.2(1.2)	
	指定校特別推薦	8(7)	11(11)	11(11)	11(11)	1.0(1.0)	
●言語聴覚療法学科	AO方式	6(6)	24(19)	24(19)	12(12)	2.0(1.6)	
	一般推薦	7(7)	9(6)	9(6)	7(6)	1.3(1.0)	
	指定校特別推薦	7(7)	15(12)	15(12)	15(12)	1.0(1.0)	
合計	AO方式	67(62)	178(140)	178(140)	84(76)	2.1(1.8)	
一般推薦	72(74)	100(94)	100(94)	60(56)	1.7(1.7)		
指定校特別推薦	77(76)	113(123)	113(123)	112(123)	1.0(1.0)		
合計			216(212)	391(357)	391(357)	256(255)	1.5(1.4)

歯学部附属歯科衛生士専門学校

AO方式入試に30名の志願。

本年度、AO方式入試には30名の志願があり、受験者全員が合格、実質競争倍率は1.0倍でした。また、11月13日(日)に行われた推薦入試、12月4日(日)に行われた一般前期入試(A日程)に、それぞれ2名の志願がありました。一般前期入試(B日程)は、1月31日(火)に札幌コンベンションセンターで行われます。

■2012年度 AO方式入試・推薦入試・一般前期(A日程)入試結果 ()内は前年度実績

学科名	入試区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質競争倍率	
歯科衛生科	AO方式	20(20)	30(23)	23(23)	23(23)	1.0(1.0)	
	推薦入試	17(17)	2(5)	2(5)	2(5)	1.0(1.0)	
	一般前期入試(A)	5(5)	2(3)	2(3)	2(3)	1.0(1.0)	
合計			42(42)	34(31)	27(31)	27(31)	1.0(1.0)

フランス・ストラスブール大学からの短期留学生在が来学

昨年12月に締結した本学歯学部とフランス・ストラスブール大学歯学部の交流協定に基づき、短期留学生在が来学しました。



右から二人目がAlexandre Kouassiさん

留学生在は、ストラスブール大学歯学部5年生のAlexandre Kouassi(アレクサンドル コワシー)さん。留学期間は9月16日から11月17日までの2カ月間でした。

来学初日は、留学生在受け入れを担当された半田教授とストラスブール大学への留学経験がある長野助教が出迎え、大学の紹介や滞在先の案内をしました。

Alexandreさんは、すでに挨拶程度の簡単な日本語ができ、会話の中でのわからない日本語はメモを取るなど積極的に日本語を勉強していました。本学留学中は、歯学部口腔生物学系微生物学分野の中澤教授のもとで、卒業論文の作

成に向けたデータ収集のための実験を行ったり、実験の成果を発表するための資料作りのノウハウを学び、ゼミの研究報告会にも参加しました。

また、日本文化への関心が高く、茶道部でお茶の体験をしたり、地域の少林寺拳法道場での練習に参加しました。

コミュニケーションが上手で、参加したどのような場でもすぐに溶け込んでしまうAlexandreさんの人柄は、短い留学期間の中で経験の幅を広げたと思います。今回の留学生在受け入れて、今後、本学とストラスブール大学の交流がさらに深まることを期待します。



〈学生キャンパス副学長制度〉

2011 Student Campus President 任命式が行われました

9月22日(金)、2011 Student Campus President(学生キャンパス副学長)任命式が行われました。

薬学部、歯学部、看護福祉学部、心理科学部から選挙により選出されたSCPに対し学長から任命状と専用ブレザーが手渡され、また、期待と激励の言葉をいただきました。

SCPは、より良い大学づくりのために学生代表が教職員とともに各種プロジェクトの企画・立案を行い、実施する制度です。

今年で4代目となるSCPですが、その多彩な活動は、学内外で注目度が上がっています。

2011年のSCP活動状況については、随時、SCPブログにて報告いたしますので、ぜひともご覧ください。



前列左から薬学部2年坂田紫帆さん、歯学部2年清水 綾さん、新川学長、臨床福祉学科2年佐藤 陽さん、言語聴覚療法学科2年上山智美さん。後列左から有末歯学部長、大野副学長、高橋心理科学部長

▶ SCPホームページ <http://scp.hoku-iryo-u.ac.jp/>

2011年度

北海道医療大学 合同就職相談会開催

10月28日(金)、臨床福祉学科・臨床心理学科・言語聴覚療法学科対象、12月1日(木)、薬学部対象とした「2011年度 学内合同就職相談会」が開催されました。



10/28 { 参加団体/63団体
●病院:32病院 ●一般企業:8社 ●社会福祉施設:19団体 ●公的機関:4団体 }

12/1 { 参加団体/144団体
●病院:69病院 ●一般企業:12社 ●薬局:61社 ●公的機関:2団体 }

当日は道内・道外の病院・施設・企業・公務等団体から薬剤部門責任者・人事担当の方々が多数来学され、学生に対して就職に関する説明や相談等をしていただきました。

参加した学生は各ブースを積極的に訪れ、活発に相談等を行うなど、終始賑わいをみせておりました。

また、10月28日(金)開催の相談会では、専門のインストラクターを招き、面接対策や公務員等試験対策コーナー等も設け、そちらでも積極的な質疑応答の姿が多数みられました。



本学では各学部ごとに、就職ガイダンス等を行い、学生の卒業後の確実な就職にむけて、教職員協働のうえ、きめ細やかな指導をしております。各学部・学科学生の就職状況等については、本学ホームページをご参照ください。

地区別懇談会を開催しました。 多数のご出席ありがとうございました。

2011年度の地区別懇談会は、10月15日(土)から11月6日(日)までの期間、全国15会場(右表参照)で開催し、554組747名のご父母の皆様にご出席くださいました。(出席率18.4%)

懇談会は、総会(後援会・学園役員挨拶/学園動向報告)、学部・学校別懇談会(現況報告/国家試験・就職関連)、全体懇談会、個別面談(学生生活全般に係るご相談)を実施し、特に個別面談においては、担当

教員との熱心な相談が行われていました。

後援会は、学生のサポート役、ご父母の皆様と卒業生、学園とを結びパイプ役として組織の強化、地区支部の活性化、学生生活関連助成、同窓会活動支援を柱とし、先般の東日本大震災に係る「被災地出身学生に対する交通費の定額補助」をはじめとする学生への様々な支援により、学生生活における快適な環境をつくることを大きな目的として事業活動を推進しております。

その中でも地区別懇談会は、後援会が「ご父母の皆様と学園を繋ぐ貴重な架け橋」として最も力を入れて推進している事業活動のひとつであり、皆様が一層満足くださるよう今後更なる充実、改善を図って参りますので、温かいご支援、ご理解とご協力を賜り、来年度もぜひご出席くださいますようお願い申し上げます。



個別面談(札幌会場)

開催地	開催日	出席者数	
		大学	専門学校
札幌	11月6日(日)	191組	14組
旭川	10月29日(土)	50組	3組
北見	10月30日(日)	25組	3組
帯広	10月23日(日)	35組	2組
釧路	10月22日(土)	23組	4組
函館	10月23日(日)	36組	3組
青森	10月22日(土)	11組	—
盛岡	10月30日(日)	15組	—
仙台	10月31日(月)	14組	—
東京	10月31日(月)	41組	—
大阪	10月16日(日)	33組	—
名古屋	10月17日(月)	12組	—
広島	10月15日(土)	8組	—
福岡	10月29日(土)	15組	—
那覇	10月30日(日)	16組	—
小計		525組	29組
合計		554組	



学部・学校別懇談会(札幌会場)

大学・専門学校同窓会役員との 懇談会を開催しました。

11月15日(火)午後7時より、ホテル札幌ガーデンパレス(2階孔雀)において2011年度大学・専門学校役員との懇談会が開催されました。

懇談会には、各同窓会役員等20名並びに学園から廣重理事長、新川学長、大野副学長、栗田常務理事、土産田理事、黒澤薬学部部長、有末歯学部部長、野川看護福祉学部部長、高橋心理科学部長、東城歯学部附属歯科衛生士専門学校長および小野事務局長をはじめとする事務局職員9名、総勢39名が出席しました。

懇談会は、理事長、学長による挨拶後、学園から学園概況、入試概要、学部・学校現況の報告、同窓会から同窓会活動状況のご報告がありました。

各同窓会-学園間の盤石な協働体制の構築及び各同窓会相互の垣根を越えた横断的交流の重要性を再認識し、盛会裏に終了しました。



廣重理事長挨拶



各同窓会現況報告

当別町主催 「プレセミナーin北海道医療大学」を 開催しました。

11月17日(木)午後4時より、当別キャンパス薬学部棟P-1講義室において当別町主催の「プレセミナーin北海道医療大学」が開催されました。

セミナーは、新潟薬科大学産学連携研究推進センターより小西徹也教授を招聘し、「新潟市秋葉区(旧新津市)における特産品開発の物語『新潟薬科大学発プチヴェールを使った創作菓子・パン』』と題した1部講演、プチヴェールを使った創作菓子「ぷち森シリーズ」を試食しながら「当別町と北海道医療大学が連携したまちづくり」を検討する2部構成により開催され、本学学生、教職員、当別町民等、約70名が出席しました。



ぷち森シリーズ



1部講演

当別町と本学は、本学が持つ人的・知的・施設財産を活かした魅力あるまちづくりについての事業を連携推進していきます。



2011年度日本ストレス学会賞

2011年度日本行動療法学会内山記念賞

大学院心理科学研究科坂野研究室の研究成果が 本年度2件の学会賞を受賞しました。

心理科学部教授 坂野 雄二

大学院心理科学研究科修士課程修了生の増田由依さん(現、帯広畜産大学学生相談室専任相談員)が在学中に作成した修士論文の成果を公表した論文(ストレス科学、第25巻所載)が2011年度日本ストレス学会賞を受賞しました。本論文は、中学生・高校生のストレス対処モデルを検討し、ストレス対処行動の評価方法を開発した研究です。日本ストレス学会賞は、2006年度の金井嘉弘さん(現、東北学院大学講師)、2007年度の大澤香織さん(現、甲南大学講師)、2010年度の高橋高入さん(現、福島県立医科大学神経精神医学講座助教)に続いて4度目の受賞であり、2年連続の受賞です。

また、博士後期課程修了生の本谷亮さん(現、福島県立医科大学神経精神医学講座助教)が在学中に作成した博士論文の一部を公表した論文(行動療法研究、第37巻所載)が2011年度日本行動療法学会内山記念賞を受賞しました。本論文は、緊張型頭痛



本谷さん授賞式

患者の治療モデルを認知行動療法の立場から明らかにし、緊張型頭痛に対する心理学的治療法の確立を目指した基礎研究です。日本行動療法学会賞は、2007年度の岡島義さん(現、東京医科大学睡眠学講座助教)に続いて2度目の受賞です。

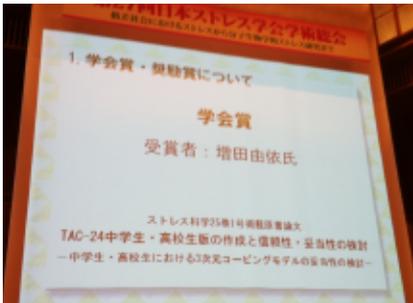
坂野研究室ではこれまで、2005年には、Elsie Ramos Memorial Student Research Award(アメリカ行動療法認知療法学会、金井嘉弘)、日本ストレスマネジ



本谷さん受賞挨拶

メント学会第4回学術大会賞(高橋高入)の2件、2008年には日本自律訓練学会JMI記念賞(坂野雄二)、日本自律訓練学会第10回池見奨励賞(古川洋和、現、帝京大学医学部公衆衛生学講座助教)、10th International Congress of Behavioral Medicine Poster Abstract Award(国際行動医学会、村椿智彦、現、東北大学大学院医学系研究科行動医学分野博士課程)の3件、2010年には日本心理学会国際賞功労賞(坂野雄二)を受賞しています。今回の受賞によって、2003年に大学院心理科学研究科で坂野研究室が発足して以来、坂野研究室の学会賞受賞回数は合計12件となりました。

札幌あいの里キャンパスで活躍する坂野研究室がストレスの基礎研究や認知行動療法研究のわが国の中心となっていることはうれしい限りです。



ストレス学会賞



増田さん授賞式



認定看護師研修センター修了式を行いました。

2011.12/8

12月8日(木)、2011年度認定看護師研修センターの修了式を行いました。

5月の入学時より7カ月わたる講義・演習・実習を経て、皮膚・排泄ケア分野13名、緩和ケア分野22名、がん化学療法看護分野8名、合計43名の研修生が、各教育課程を修了し、翌5月の認定看護師資格認定試験に挑みます。

多くの役員、ご来賓の見守り中、各分野の修了生代表が、認定看護師として医療の現場に立つことへの決意と、7カ月をともにした仲間たちとの絆の大切さを述べ、式を締めくくりました。



授 業 レ ポ ー ト

心理学部 臨床心理学科 [4年制]

専門演習Ⅰ・Ⅱ〈卒業研究〉
3・4年次 必修

今回のレポーターは

漆原ゼミの4年生。前列左から中村勇希さん(札幌光星高校卒)、長谷川文也さん(小樽潮陵高校卒)、後列左から工藤武也さん(弘前南高校卒)、黒川翔平さん(網走南ヶ丘高校卒)、峰江竜輔さん(札幌新川高校卒)。4年生は6名ですが、きょうは女子1名が体調不良で欠席です(残念!)



人の心や行動の奥に迫る研究は アカデミックな興奮を味わえ、ハマります！

メンバーの研究をざっと紹介。

こんにちは!漆原ゼミ4年生です。3年次後期から同じメンバーで「専門演習Ⅰ・Ⅱ」を経て、現在「卒業研究」真っ最中です。漆原宏次准教授のマンツーマン指導のもとでそれぞれの研究を進めていますが、隔週で集まり進捗状況を報告し、意見交換しています。その様子を少しだけご紹介します。



心理学は科学ですから。

私たちが研究について説得力ある話ができるようになったのは3年次「専門演習Ⅰ」での苦労のたまものです。500ページもある「行動変容法入門」を学生が章ごとに分担し、プレゼンする形で進められたからです。1人4、5回は担当するので、まとめる・書く・発表する力が鍛えられました。学習心理学はデータ重視で数式も多く扱うため、科学的思考も徹底して刷り込まれました。1・2年次の授業を経てゼミに入るころには心理学からミステリアスなイメージが払拭され、卒業研究で科学、学問として学ぶ醍醐味を手にできます。

■衝動買い、ギャンブル…

最初は黒川と中村。きょうは二人で作成した調査票の最終確認です。一つの調査で得た結果を違う方法で解釈、それぞれの卒業論文にまとめます。黒川のテーマは「衝動買いとセルフコントロール・価値割引の関係」、中村は「ギャンブル性の有無と認知の関係」で重なる部分が多く、きょうは二人で手分けして翻訳した英語論文の発表もありました。

卒業研究で調査を行うケースはどのゼミでもありますが、調査対象は主に本学部の学生です。それで札幌あいの里キャンパスではとくに後期に多種多彩な調査票が飛び交います。黒川・中村の調査は来週実施に決まりました。

います。「記録ダイエット」の方法を勉強へ応用できないか、英単語の学習における自己記録の有効性の調査を計画中です。きょうは実施方法の細かな部分について意見を求め、被験者のグループ分けの倫理的問題、デメリットなども議論されました。

■書くだけでやせるなら…

工藤は本学大学院進学が決まり、長期的な研究計画を立ててセルフモニタリングの研究を進めて

■40ドルは必要経費

峰江のテーマは「職業的不安」。自己分析により不安は変容するか、自己限界を作るのかを調べています。峰江も質問紙を作成中ですが、必要な洋書が手に入らない問題に直面しています。絶版か?と一同、同情しかけたところで、iPadを手に先生が「航空便料込み約40ドルで手に入る。買う?」。もちろん峰江は即決!資料探しと入手の苦勞もいい経験です。



■これぞ涉獵(しょうりょう)

長谷川は論文漬けです。これまで15本読破、目標は30本!興味をかき立てられた小集団SST(ソーシャル・スキル・トレーニング)の関連論文を読み込み、消化しています。最終的には共通点や傾向を明らかにし、不足部分など課題を提示する卒業論文にまとめるつもりです。きょうはSST実施後のフォローアップに関する論文について発表しました。



漆原先生の専門は、ヒトを含む動物が経験により行動を変える(パブロフの犬が有名です)過程を研究する学習心理学ですが、卒業研究のテーマは分野を超えて自由に選んでいます。



担当教員より

興味を持ったことを、
自分で満足するまでトコトン調べよう

●漆原 宏次 准教授

私の専門は学習心理学ですが、ゼミ生の卒業研究のテーマは、私の専門分野を多少外れてもいので、自由に選んでもらっています。ただし、そうやって自由に選んだテーマである以上、各自が責任を持って自分の研究を進める。そこに、私の専門分野の視点からコメントやアドバイスを加えて、新しいものを作っていくというのが今のゼミの方針です。自分の読みたいと思う論文を探して貪り読んだり、自分の頭で考え抜いた実験や調査をワクワクしながら行ったり、といった、心理学研究の醍醐味、面白さを、卒業までにたくさん経験してもらいたいですね。

良く学び良く遊んだ 学生時代

歯学部
歯学科

准教授 広瀬 弥奈



私は本学歯学部の卒業生です。大学入学後、すぐに道東にある白糠郡音別町の教養学部に行くこととなり、初めて寮生活を味わうこととなりました。ご存知の方も多いと思いますが、教養学部の周辺には校舎とグラウンドを中心として、男子寮、女子寮そして数名の先生の官舎があるだけで、あとは海と木ばかりという環境でした。当時の歯学部生のほとんどは貴重な青春時代の2年間をそのような中で暮らしたわけ



寮生活での1場面(一番上が私)

寮生活では、全国から集まってきた知らない者同士が食事やお風呂も一緒ということで、最初はみな緊張していたのを覚えています。しかし、打ち解けるのも早かったのか、そのうち毎晩誰かかれかの部屋に集まり、消灯?までの時間、家から送ってもらったご当地のお菓子などを持ち寄って食べながら、色々なことを語りあったものです。なぜこの大学に来

たのか、これからどんなことをやりたいか、最初は固い話が主でしたが、徐々に深い話もするようになりました。私が特に好きだった話はみんなのお国自慢で、普段、大学と寮という閉された環境で生活しているせいか、新潟、大阪、滋賀、和歌山など自分の育ったところはいかにすばらしいかを聞くのが楽しみでしたし、各地の名所・名産の話を開けば聞くほど行ってみたいくなりました。そこで、みんなで計画を立てて、大きな休みとなれば各地を巡りました。実家に大勢で泊まらせてもらったり、美味しいものをお家の方にご馳走になったりと、当別の専門学部に



沖縄万座ビーチを背に(向かって前列左が私)

移ってからもこのような仲間との付き合いは続きました。卒業までの6年間で、北は稚内、利尻・礼文から、南は京都、岡山、果ては沖縄まで、1都、2府、10県と随分楽しい思い出を友人たちと作ることが出来ました。今でも時々同窓会などで集まるとこれらの話で大いに盛り上がります。

卒業後、私は母校の大学院に進みました。そして、現在に至っております。これまでには楽しいことばかりではなく、辛いことも沢山ありました。そのような時にいつも励ましてくれたのが、学生時代の友人たちです。クラウンブリッジの講座にいる主人もその1人ですが、写真は今でも変わらず人生の様々なことを相談できる仲間たちです。学生の皆さんにも、大学生活の中でこのように将来ずっと頼りになるような仲間たちをぜひ作ってほしいと願っています。

私の 学生時代

今、本学の教壇に立たれている先生たちは、学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。今回は広瀬准教授と高橋教授のお二人に、当時の様子を語っていただきました。

私の学生時代

心理学部長

教授 高橋 憲男



来年3月で定年退職となるので書類や本・雑誌の整理をしている。書類は焼却、しかし、本は手間取っている。自宅に持ち帰ることのできる分量も限られている。

これからは読まないと思う本を捨て始めると、大学院以降に購入した専門書は割合簡単に捨てられることが分かった。何十年も前

の専門書はほとんど役に立たない。しかし、捨てられないものがあることに気付いた。学部時代に一生懸命に勉強した本や、影響を受けた本は、書架から引っ張り出す手がはたと止まり、何日も過ぎてしまう。

学部時代は金沢だった。朝は金沢城の石川門をぐり、授業が終わると、TVなどで紹介される東のお茶屋街を回り道して帰宅したり、冬、雪が降ると朝早くに大学の隣に位置する兼六園の景色を楽しんだりした。

幸い、小さな大学だった。心理学専攻4名に対して、教員は5名であった。教員は勉強するものには自由に勉強をさせてくれたし、実験もさせてくれた。3年生の時、1人で高さ3メートルの堀に囲まれた動物実験室にこもりハトとネズミを相手に実験を行った。自主ゼミで使った最初の本がK.Hullの「行動の原理」であった。

心理検査のMMPIを先輩の被験者となって受けると、殆ど異常という結果が出てきた。

北の都に秋たけて
吾等二十の夢数う
男女の棲む国に
二人に帰るすべもなし
(酒を飲みながら歌った
寮歌の一部)

当時、大学は政治の季節でもあった。感覚崩壊という言葉にうたれたりもした。

4年次、学習心理学に興味を持ち、部分強化をテーマとして1人で1日6時間ほどネズミを相手に実験室に籠った。三カ月ほど発話をしないでいると、言葉が非常にに出にくくなる体験もした。実験が終わると1人で豚足を食べながら酒を飲んでいた。精神病院で行われた授業で分裂病の典型症状を身近に見ながら教わったのもこのころである。

結局、B.ラッセル「神秘主義と論理」(B.ラッセルは高校時代から影響を受けた)、S.Freud「症例研究」、今田 恵「心理学史」、K.シュナイダー「精神病理人格」、島崎敏樹「人格の病」、Pavlovの“Conditioned Reflexes”などを飛ばした作業が続く。



3年生の時、故田中先生(MMPIの権威)と

OG訪問

千葉県鴨川市にある亀田総合病院は医療サービス・経営、双方のクオリティの高さで非常に注目されている病院です。本学OGの森さんも、STとして同病院で多彩な経験を積んでいます。

医療法人鉄蕉会
亀田総合病院リハビリテーション室(千葉県) 言語聴覚士
森 美琴子さん (心理科学部言語聴覚療法学科2009年卒業)



■ 巨大な総合病院で。

美しい海岸線が続く外房、人口約3万6000人の鴨川市にある亀田メディカルセンターの中核施設、亀田総合病院が森さんの勤務先です。925床、32診療科、医師約400名、看護師約850名を有する同病院は、医療機関では極めて珍しい「カスタマーリレーション部」の設置など、QOL(クオリティ・オブ・ライフ)、患者満足度の向上を徹底させ「もう一度入院したい病院」「働きたい病院」と、患者さん、医療関係者、またビジネス界からの高い評価で知られます。

同病院のリハビリテーション事業管理部は140人を超える大所帯。森さんが所属するリハビリテーション室もST(言語聴覚士)9名とPT(理学療法士)、OT(作業療法士)、合計50名以上のリハビリスタッフを揃え、発症急性期患者さんに対応しています。森さんは主に救命救急科や脳神経外科の患者さんに、失語症や高次脳機能障害のこぼりのリハビリ、その他疾患の嚥下(食べ物を飲み込むこと)の評価、訓練を行っています。

■ 「その日そのときの最大を」。

働き始めて約2年半の森さんは「どのケースも忘れられないものばかり。STとして、人として、意識や視点を変えられたエピソードは挙げれ



年に1度、リハビリスタッフが研究発表を行うリハビリテーション研究会があります。まだ発表経験のない森さんにも、「研究」の視点は身近なものになっています。

ばりがありません」と言います。

「その日そのときの最大を」ということばも森さんが深く意識に刻み込んだものの一つです。心臓血管外科で気管切開、人工呼吸器使用となった患者さんのケースでした。夏の夜空に開く大輪の花火を見せてあげたいと、担当医師、看護師があらゆる方法を検討したそうです。患者さんも、森さんが担当するスピーチカニューレ*の発声練習で毎回話題にするほど花火を楽しみにしていました。「花火」が患者さんを中心にしたチームの合い言葉のようになりました。結果的には、別の疾患もあり、患者さんは花火を見ることができずに亡くなりましたが、このときチームの一員だったPTが森さんに言ったひと言が「急性期はその日そのときの患者様の最大を引き出してあげることが必要。先を見つつ、でもその時の最大を」でした。

*気管切開手術後、通常のカニューレ(管)を挿入すると声を出すことができなくなりますが、スピーチカニューレは上部に穴があり、発声が可能です。

■ 災害時の医療が目の前で。

3月11日に発生した東日本大震災で、亀田総合病院はいち早く被災者を受け入れました。「リハビリテーション室は被災した人工透析患者様の診療室に、リハスタッフは搬送係になりました。市内に宿泊施設を準備しているわき市の介護老人保健施設入所者・職員を丸ごと受け入れた際も移動を手伝いました。人工呼吸器の方の受け入れ時には、STとして離脱後の摂食リハビリにも関わりました」と森さん。自衛隊のヘリで重症患者さんが搬送されて来るなど、災害時医療の生の体験を得ました。



温かな人間関係と各々の専門性の高さ、どちらも医療の質を支える大切な条件です。



■ STのSは、スマイルのS!

「前頭葉の手術でことばと表情の全てを失った患者様が、訓練を経て初めて声を出せた瞬間、初めて笑った瞬間の感動は忘れられません」。患者さんの喜びが森さんを励まし支えます。「日々、STの難しさ、自分の力不足を痛いほど感じますが、患者様にいい変化があったとか笑顔になったとか、小さくても嬉しい、よかったと思う瞬間がたくさんある仕事です。「STのSはスマイルのS」、私が笑顔でいて、患者様も笑顔になれますように、と頑張って仕事をしています。目標は1日1スマイルゲット(笑)」。

人から与えてほしいなら、自分から与えろと言われます。森さんのスマイルはまさにそれ。これからもスマイルで得た日々の感動をどんどんエネルギーに変えて、活躍してくれるでしょう。

文化週間

文化系サークルという大きな風

文化局長 菅原 章弘 (薬学部3年)

みなさん寒いこの季節どのお過ごしでしょうか。風邪にはお気をください。

さて、今年も文化週間(10月31日～11月7日)が行われました。

文化週間とは、文化局に所属しているクラブ・サークルが普段行っている活動の成果を学生・先生方などのみなさんに知ってもらうために行われている企画です。

2つのダンス同好会(当別・あいの里)による合同イベントをはじめ、ゴスペル部、弦楽部、吹奏楽部のミニコンサート。写真部、Fisherman's Dine Clubの展示、茶道部の

茶話会など恒例のものとなったものから、今期新規設立団体のカフェ同好会の仮設カフェ、演劇サークルの演劇などの新しい試みを持った団体の加入によって、新しい風が吹きました。

来年はどんな新しい風が混ざり、そして吹いてくれるのか。来年のこの季節は文化系サークルという風にもお気を付けてください。

最後になりますが、文化週間に参加、協力して下さったみなさまありがとうございました。



演劇サークル

開催内容

SF研究部	部誌配布
医療パソコン研究会	展示
美術部	作品展示
写真部	写真展示
Fisherman's Dine Club	活動写真等展示
植物研究部	野菜と果物とビタミンについての展示
歯科医療問題研究会	歯科に関する発表展示
萬屋	ポスター展示
カフェ同好会	簡易カフェ
茶道部	お茶会
吹奏楽団	ミニコンサート
弦楽部	ミニコンサート
ゴスペル部	ミニコンサート
軽音楽部	ライブ
演劇サークル	演劇上演
YOSAKOIソーラン祭り部	演舞DVDの放映
ダンス同好会PRANCY	共同ダンスイベント、ダンスバトル
あいの里ダンス同好会HAPPILY	



カフェ同好会



弦楽部

球技大会

今年初企画の競技も盛り上がりました!

大学祭実行委員 西山 加那子 (薬学部1年)

今年の秋季球技大会は11月7日～11日の5日間を使い、アンケートで人気を集めたバレー



ボール・バスケットボール・フットサルの3競技を行いました。

バレーボールの決勝戦では、両チームが互いにセットカウント

を取り合い、手に汗握る試合でした。また、バスケットボールでは、男女別で試合を行い、男子の決勝はどちらも譲らない攻防戦でした。女子は3チームの応募とチーム数が少ないながらも、迫力ある試合を展開していました。また、フットサルでは、実力差のある試合でも、楽しく競技に取り組む学生の姿が見受けられました。

また、今年から取り入れた、実行委員からの持ち込み企画として「パン食い競争」「ドッジボール」も行いました。試合観戦に来た学生も



参加し、球技大会は一層の盛り上がりを見せました。景品のパンも好評でした。

今回の球技大会にあたって、協力していただいたみなさま、本当にありがとうございました。

バスケットボール部

女子バスケットボール部、1部昇格しました!

バスケットボール部 茅野 杏那 (薬学部3年)

私たちは10月1日～16日に行われた、男子第63回・女子第56回北海道大学バスケットボール選手権大会兼第63回全日本大学バスケットボール選手権大会北海道予選会で2部1位通過、10月23日に行われた同大会入れ替え戦にて勝利し、1部昇格を果たしました。

過密なカリキュラムの中での大会への参加は日程的にも体力的にも厳しい面が多々ありました。実習がある学生もおり、なかなか人数

が集まらず思うような練習ができない日も少なくなかったです。しかし、このような環境の中でも1部昇格を果たせたのは、一人ひとりが強い気持ちを持ち、尚且つチームとしては一つの目標に向かって努力した結果だと思えます。

来年は今年同様の厳しい環境の中、更なる強豪チームと戦うこととなります。1部の中で



も上位を目指して頑張っていきますのでご声援よろしくをお願いします。

第17回スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム (SCRP) 参加報告

歯学部教授 安彦 善裕

今年も8月19日、本学歯学部の学生がSCRP日本代表選抜大会に参加してまいりました。SCRPは学生が自ら研究を行いその成果を発表する場であり、優勝者はアメリカ歯科医師会主催の世界大会に招待されます。世界大会への切符のため、発表はすべて英語で行われます。今年も、5年生の原田文也さん、都倉堯明さんが放課後や休日を返上して行った研究成果を発表致しました。タイトルは“Extension of life-span of Cultured Epithelial Cell Rests of Malassez with Rho Kinase inhibitor” (Rhoキナーゼ阻害剤によるマラッセ上皮細胞の培養寿命の延長)です。歯根膜の中に存在するマラッセ上皮細胞は歯の再生のための資源としての期待が高まっており、単離培養することは可能ですが、歯の再生に必要な量を得るための長期にわたる培養が困難です。そこに着眼し、Rhoキナーゼ阻害剤という薬剤を添加することにより簡単に長期培養が可能にしたというものです。事前にプレゼン



写真左から、青木さん(臨床研修医、第15回大会参加)、植原さん(大学院生、第12回大会参加)、都倉さん、安彦教授、原田さん、原田先生(歯学部臨床教授)、長野先生(歯学部助教)

テーションの練習を致しましたが、発表者の原田さんの英会話の能力には驚かされ、「これならいける!」という期待を膨ませながら送りだすこととなりました。発表は、一般公開されず、審査員数人の前で行われましたので、発表そのものの様子はわかりませんが、発表後の一般公開の部屋に入ると、やりきった学生の熱気と余韻がつづ

さに伝わってきました。結果は、参加歯学部21校中、惜しくも準優勝以内に選ばれませんでした。その場に立つまでの二人の努力には本当に敬服の外はありません。この経験はきっと近い将来、二人をプラスαの歯科医師に育ててくれるものと信じております。

EDITOR'S NOTE

師走に入り、大雪(たいせつ)、冬至を迎え、雪の季節がやってきました。2011年は東日本大震災を受け、多くのことを感じ、学び、行動した年となりました。個人や医療人、団体としての様々な活動を通して、「絆」の強さをあらためて感じました。台風や洪水も日本や世界の各地で発生し、気候変動の影響を実感した年でもありました。

さて、いよいよ2012年6月には、JR学園都市線(桑園～北海道医療大学間)が電化され、電車が開通します。所要時間短縮のほか、CO₂排出量削減や騒音低減など、人にも環境にも優しいサービスが期待されます。師走に入ると慌ただしくなりますが、元気に新年を迎えられますことを願っています。

(S.M記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.149

STAFF ● 増田 園子 浜上 尚也 安彦 善裕 中山 英二
 鎌口 有秀 志渡 晃一 竹生 孔子 富家 直明
 榊原 健一 杉原 佳奈 長原 利明 宮崎 隆志
 宮川 雄一 戸藤 成人

発行日 ● 2011年12月21日

編集・発行 ● 北海道医療大学広報・教育事業部 入試広報課
 〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
 ☎(0133)22-2113
 http://www.hoku-iryu-u.ac.jp

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしております。
 E-mail:nyushi@hoku-iryu-u.ac.jp



■北海道医療大学の教育理念
 生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。